



南砂みずべ かわらばん

2012・3月

通巻 69 号



人間って いいな



私達一人ひとりの人生は、新しい出会いがり、そして時に別れがあります。この季節は、みずべでいっぱい遊んだことも達が幼稚園や保育園に入園する日が近づき、成長の喜びと、毎日会えなくなるのがちょっと寂しく感じる時でもあります。4月から新しい生活が始まることも達、きっとドキドキ、ワクワクしながら、その日を心待ちにしていることでしょう。沢山の優しい想いの中で育まれてきた大切ないのちです。一緒に喜んだり、悩んだりしてくれた“みずべ”のお母さんやお父さん達。赤ちゃんの時から抱っこしてくれたり、遊んでくれたり、歌やお話を聞かせてくれたボランティアさんや支援士さん達は、みんなと一緒に楽しい時間を沢山つくってくれました。

巣立つ子ども達のために、お母さん達が可愛い手作りのカードを作ってくれています。その1枚1枚に、大切な思い出があり、幸せに健やかに育つようにとの願いがこめられていることでしょう。

他の人の喜びと一緒に喜べば、その喜びは2倍になるといわれます。他の人の悲しみを一緒に悲しめば、その悲しみは半分になるといいます。これはドイツに古くから伝わることわざですが、人と人とが思いやりをもって、支え合い、励まし合っていくことは、人間にだけ与えられていることで、とても素敵なこと、人間ってすごいな—と思います。子ども達がもう少し大きくなった時に、自分がしてもらったように、他の人のことも考えたり、他の人のためにも自分の時間をつかうことを楽しいと思って欲しいですね。

笑っている時も、泣いている時も、怒っている時も、その一瞬一瞬の自分を大切と思うように、自分以外の人も、かけがえのない、この世でただひとりの大切な存在です。

私自身も、ここでの様々な出会いを通して、こどもにも大人にも、信頼できる大好きな友達や仲間が存在がどれ程大切かということをお教えいただきました。一人ひとりの心にある愛と信頼が、温かい人と人のつながりの中で、より確かなものになっていくことを日々感じた一年でした。たくさんの「ありがとう」を、心をこめて…。

依田幸子



今月の子育ての詩（うた）

和光堂「子育て川柳」より

- ・50年 築いた威厳を 孫が消し
- ・かくれんぼ 見えても見えぬと 孫さがす



今月のわたしのお気に入り

EDUコミュニケーションMOOK

出版：小学館

「しからない、せかさない、求めない」 子どもが笑顔になる 幸せな子育て

この本はいつもひろばに遊びに来てくれているお母さんからいただきました。「まだ子どもが一人だった時、叱ってばかりの毎日で落ち込んでいた時に読みました。青森にある森のイスキア主宰の佐藤初女(はつめ)さんの文章を読んで(は～っ)と深いため息をついたことを覚えています。」と話してくれました。



ひとときコラム

今年の1月からリフレッシュひととき保育に6期生として講習を受けた新しい支援士さん達が加わってくださっています。今回の支援士さんの多くの方が、以前ご自分のお子さんを連れてみずべで過ごしたという経験を持っている方達です。「みずべのために何か出来たら…」と嬉しい言葉をくださいます。初めての保育の時はどの支援士さんも「どきどきするわ。どんなお子さんかなあ。ママも来るのが大変かなあ…」と思いを馳せ、親子が到着すると笑顔で温かく迎えてくださっています。

先日こんなエピソードがありました。

もうすぐお母さんがお迎えの時間、ある男の子と支援士さんとで戦隊ごっこのお話をしていました。男の子はごっこ遊びのイメージが膨らむばかり。目がきらきらと輝きます。でも、さてこれからいよいよ遊ぼうという時になってお母さんがお迎えに来ました。男の子は「帰りたいくない！」と泣き出してしまいました。横で支援士さんも「私も泣いちゃう！嬉しい！」と笑顔。「また一緒に遊ぼうね」と親子に手を振って送り出し、「楽しかったです」といってくださいました。周りの私達も心温まるひと時でした。



＜おめでとうの会 参加者募集＞

＜おめでとうの会＞ 3月17日(土) 11:00～11:45

みずべでは今年もこの春に幼稚園・保育園に入園する子どもたちの新しい出発をお祝いする「おめでとうの会」を開催します。当日お子さんに渡すカードの製作をしますので、参加希望者は受付にお申し出下さい。

＜カード製作日＞ 3月 6日(火) 14:00～(都合の付かない場合は

3月13日(火) 10:30～ スタッフにご相談下さい)



江東区南砂子ども家庭支援センター “みずべ”

〒136-0076 江東区南砂3-14-1-101 (指定管理者: 社会福祉法人雲柱社)

TEL03-5617-7772 FAX03-5617-7773 (児童虐待ホットライン TEL03-3646-5481)

Email: minamisunakosodate@ka.baynet.ne.jp URL: <http://www.kotomizube.jp>



とは言うものの、仮に私が育休を取らずに仕事を続け、妻が専業主婦ならば育児は妻がして当然だ！と私は言うでしょうし、私の仕事の休日は、私の体を休めて好きな趣味をしてリフレッシュする！と言うと思います。『俺は毎日上司に怒られストレスを抱え、それでも家族のために頑張っているのだ。休みの日に好きなこと出来ずに家事と育児をしろというなら、そっちが働いてほしい。育児をしているほうが楽に決まっているから俺が仕事を辞める！』という意見は尤もだと思います。何も間違っていないです。

私は育休を取ったからって偉そうに夫の育児協力をうながすような事は言いたくありません。協力するしないは本人の自由です。ただ言いたいことは、奥様に『夫は鵜飼の鵜と同じ。餌(お金)だけせつせと運んでくるだけでいい。それ以上は夫に何も期待しない。』と内心で思われる可能性があるということ、ここに書いておきたいです。

育児に協力したからって絶対奥様がそういうことを思わない訳ではないでしょうが、子供が手のかかるうちだけは最大限、家事・育児をしておいたほうが無駄に根に持たれることは無いと思います。

私は頻繁に夫婦喧嘩をしていましたが、子供のために夫婦仲良くいることが大事だと思うようになりました。子供に辛い思いをしてほしくないからです。そのためには頼まれたことは文句を言わずテキパキと動くようにしています。家族全体がうまくいくな、いくらでも自分の自我を断つ所存です。喧嘩して先に謝ることは主従関係の従になり負けた訳ではなく、家族の円滑の為なので大きな意味で寧ろ勝者です。

育児休暇についてですが、取得することを良い事だと思われがちですが、それぞれの事情があることなので、一概に言えません。大事なことは、育休が終わり職場に復帰した際、休んでいたことにより与えられる仕事の内容が変わったり、転勤になったり、いろいろな待遇面が変化しても、(出来れば不平不満を抱かずに)無事に同じ会社で働き続けることだと思います。育休が成功だったと言えるのは、無事に職場に復帰して平穏な日常を送ってからです。私の場合、会社で育休取得の男性が初めてだったので、後輩たちへの道すじを残すためにも無事に仕事復帰しなければいけないと思っています。

最後になりますが、私は育児という貴重な経験を出来たことを心から良かったと思っています。あのまま仕事だけの人生だったなら、妻の存在にここまで感謝することは無かったと思います。家族の原点を気付かせてもらった育休でした。家族仲良くが大事です。読んでくれた皆様の少しでもお役に立てる内容になれたなら幸いです。

読んで頂いてありがとうございました。

